

戦後74年目の夏を迎えました。あらためて「戦争はイヤだ」という思いを深める夏です。1945年8月15日、日本国民310万人、アジアの2000万人以上の人々の命を奪った「15年戦争」が終わりました。「戦争による惨禍を2度と繰り返してはならない」という願いが実って、日本国憲法が生まれました。憲法9条があるから、自衛隊員は一人も海外の戦争で殺し殺されることはなく、「戦後」を続けることができました。

ところが、安倍首相は、「9条」を変えて、日本を「戦争する国」にしようとしています。「子や孫たちに、戦争ではなく、平和に生きられる社会を手渡したい」。その思いを集めましょう。国民の声で「安倍改憲」を止めましょう。



戦後74年目の夏 「平和な戦後をいつまでも」

9条を変えてはいけない

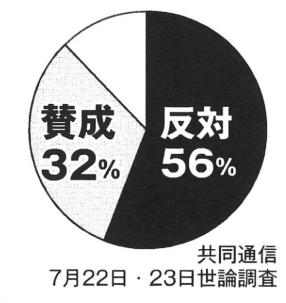
改憲勢力「3分の2割れ」 「改憲急ぐな」の声示す

参議院選挙の結果、改憲勢力（自民・公明・維新）の議席数は、改憲発議に必要な3分の2に届きませんでした。安倍首相は、さかんに「（改憲）論議を行うべきという国民の審判が下った」と言っていますが、そうでしょうか。

選挙後の世論調査（7月22日・23日・共同通信）でも、「安倍首相の下での改憲に反対」が56.0%と、「賛成」32.2%を大きく上回っています。また、朝日新聞の調査でも、「改憲議席が3分の2に届かなかったこと」に対して、43%が「よかった」と答えています。

今回の選挙結果は、「安倍首相が改憲を急ぐことに反対だ」という国民の声を示しました。安倍首相は、この民意に耳を傾け、重く受け止めるべきではないでしょうか。

安倍首相の下での改憲



「憲法改正」より「暮らし守れ」が国民の声

自民党は、この選挙で改選議席を9議席も減らして、単独過半数を割り込みました。一方、全国32の一人区すべてで野党統一候補が擁立され、改選2議席を大きく上回る10選挙区で勝利しました。市民と野党の共同の勝利です。「辺野古に基地はつくらせない」（沖縄）、「イージスアショアはいらない」（秋田）などの声をはじめ、農業・漁業・暮らしを壊してきた政治への怒りが示されました。

どの世論調査でも、国民が政治に望むものは、「年金・医療・介護など社会保障」がトップであり、「憲法改正」は最下位です。「改憲」よりも「暮らし守れ」が国民の声です。

国民の声を無視して、消費税増税や改憲に暴走する安倍政権。主権者として「ノー」の声をあげ、暴走を止めましょう。